

# 「滋賀83号」栽培こよみ(化学肥料や殺虫・殺菌剤を使用しない栽培)

## <施肥>

- 下表の基準量を目安に施用
- 側条施肥の場合は6月下旬～7月上旬に**葉色が3.8以下に低下したら追肥**
- 穂肥は**幼穂形成期(幼穂長1mm)の一週間前(7月中旬)**ころを目安に施用

施肥法	基肥	追肥	穂肥	合計
全層	4kg	2kg	4kg	10kg
側条	4kg	(1kg)	4kg	8kg (9kg)
大豆跡	0~3kg	-	4kg	4~7kg

- \* 10a 当たり窒素成分量
- \* 肥料は「有機アグレット」を想定している。
- \* 穂肥時期までに葉色の低下がみられる場合は、側条施肥でも追肥を検討する。
- \* 上表を基準とし、地力に応じて減量する。

## <育苗・移植>

- 温湯消毒は60～62℃で10分間
- 温湯消毒後の種子は直ちに浸種するか、十分に風乾して低温低湿度で保管する
- 5月1日から15日を中心に移植
- 栽植密度は下表の基準を参考とする

湖辺	湖辺砂質、平坦	中山間
50～60株/坪	60株/坪	70株/坪

## <水管理>

- 代かき前にあぜ塗りや畦畔補修で漏水対策
- 除草剤処理後はやや深水で7日間の止水管理を遵守
- 目標穂数の8割の茎数(茎数の推移を参考)で溝切り・中干しを実施
- 出穂前後各3週間は常時湛水管理
- 品質低下防止のため刈取予定日の5日前までは間断かんがいを実施

## <病虫害対策>

- 原則は**殺虫・殺菌剤(化学合成農薬)**を使用しない
- 病虫害の常発地域での栽培は避ける
- 斑点米カメムシ類の対策は畦畔の2回連続草刈りと色彩選別機を利用して行う
- いもち病やウンカ類の多発時には一部農薬の使用も可能
- 化学合成農薬を使用する場合でも、「環境こだわり農産物」の基準を満たすこと

## <収穫・乾燥・調製>

- 籾黄化率 85～90%が刈取適期
- 乾燥時の仕上げ水分は14.5%
- 1.85mm以上の網目で選別



## ○特性概要

項目	滋賀83号	日本晴
出穂期	8月9日	8月8日
成熟期	9月16日	9月14日
稈長	73cm	84cm
穂数 (/m <sup>2</sup> )	383本	381本
精玄米重 (/10a)	611kg	560kg
同上比率	(109)	(100)

H28～R4年の平均値(5/10移植・農技センター内)  
\* 化成肥料によるデータ。

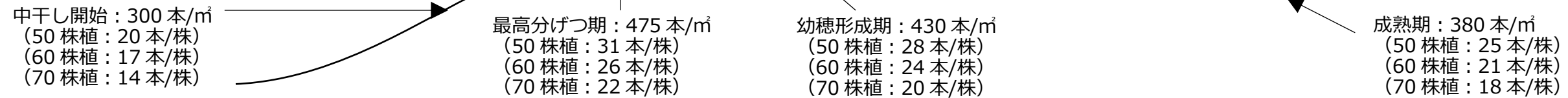
## ○収量構成要素の目安(540kg目標の場合)

項目	目安	項目	目安
穂数	380本/m <sup>2</sup>	登熟歩合	80%
一穂粒数	80粒	玄米千粒重	22.5g
m <sup>2</sup> 当り粒数	30,000粒		

## ○収量(/10a)(粒厚1.85mm以上)・品質の目標

地域			大豆跡	整粒歩合
湖辺	湖辺砂質、平坦	中山間		
540kg	510～540kg	510kg	540kg	80%以上

## <茎数の推移>



月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月～			
生育期区分	育苗期	移植期	活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	出穂期	登熟期	成熟期
水管理	浅水代かき・自然減水	浅水	やや深水	浅水管理	中干し	間断かんがい	★常時湛水管理(出穂前後各3週間)	間断かんがい		
栽培管理のポイント(★は要注意事項)	<ul style="list-style-type: none"> <li>★病害虫の常発地域を避けて栽培</li> <li>★漏水防止対策                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧な代かきにより漏水を防止</li> <li>・あぜ塗りや畦畔補修を実施</li> </ul> </li> <li>★「建苗の育成」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・温度管理の徹底で徒長と葉焼けを防止</li> <li>・うす播き、均播を励行</li> <li>・温湯消毒後は60℃で2時間、風乾後低温低湿度で保管</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★「移植・施肥」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月1日から15日を中心に移植</li> <li>★基肥は基準量を目安に施用</li> <li>★除草剤処理後はやや深水で止水管理7日間を徹底</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★溝切り・中干しは目標穂数の8割の茎数で実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★追肥施用                             <ul style="list-style-type: none"> <li>★基肥が側条施肥の場合は葉色が低下したら施用</li> <li>★窒素成分2kg/10aを基準</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★「穂肥施用」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>★幼穂形成期一週間前に施用</li> <li>★窒素成分4kg/10aを基準</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★「雑草管理」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒ工等が目立つ場合に中期剤を処理</li> </ul> </li> <li>★出穂2～3週間前と出穂期の2回草刈りを徹底</li> <li>★カメムシ防除のための畦畔2回連続草刈り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★「病虫害」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・多発時は一部農薬の使用も可能</li> <li>★「病害虫(いもち病、ウンカ類等)防除」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★「登熟後半の水管理」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>★刈取予定日の5日前まで間断かんがいを実施</li> </ul> </li> <li>★「適期収穫」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>★刈り遅れに注意</li> <li>★籾黄化率85%～90%が刈取適期</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★「乾燥調製」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な乾燥時の仕上げ水分は14.5%</li> <li>★「色彩選別機」                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・1.85mm以上の網目で選別</li> <li>・斑点米を除去</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>★「土づくりの徹底」                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・稲わら腐熟促進のため、秋耕を実施</li> <li>・土づくり肥料を施用</li> </ul> </li> </ul>	

